

今年も長い冬が終わり、待ち遠しい春！がやってきました。

岩手の冬は、特に長く、例年、12月から約4カ月続く（秋は2カ月と行ったところでしょうか）ので、春になると心が弾むという人も少なからずいるのではないのでしょうか。

気象庁によると、今年度は、ラニーニャ現象の発生ということで12月から1月中旬まで西高東低の気圧配置が続き、厳寒の気象状況となりました。

全国的に見れば、新潟、福井、富山、秋田の豪雪、関越自動車の2日間に渡る大型車の立ち往生等、岩手で見れば、県南地域への集中的な大雪が発生しました。

ひとたび大雪が降れば、道路上の雪は、除雪車で対応することになりますが、連続して降れば除雪体制にも限界があるので、除雪が追いつかないことも発生します。除雪は地域の建設業者等が対応することになっていますが、現状としては、作業員の高齢化が進展し、人数に制限があることや、休息も取らないと継続した対応はできないのが現実です。

今後は、この限られた労働資源をどう運用して除雪体制を継続して構築していくのか、問われてきます。

ここで私が道路管理を担当している八幡平地域の国道282号について記載します。

この路線は、高速道路と並行しているので、大雪や事故での高速道路通行止め時には代替路線として機能することになりますが、この際に、ノーマルタイヤでチェーンも保持しない大型車がスタックし、

大渋滞が発生させることが多々あります。

こうなると、どこでスタックが発生し、どこまで渋滞が生じているのか、現場に向かっても、その渋滞に巻き込まれるなど、これまでその全体像が把握できませんでした。また、早急に対策を講じないと、立ち往生発生の起因ともなりかねません。

これを解決する手法として今年度から、「グーグルマップの交通状況」をチェックすることとしています。

このアプリを起動すると、スタック車両があれば赤または茶で表示され、渋滞がどこまであるのか物の見事に表示してくれます。場所や状況が分かれば、その初期対応として、作業員による砂・塩の散布や除雪車の緊急出動など早急な対応が可能です。また、一方で、すべての路線が黄緑色表示の場合、安定的に交通が流れていることを確認できます。

こういったことから、令和3年2月13日土曜日23時7分に発生した福島県沖地震（M7.3）では、いち早くこのアプリを起動して管内の交通流に問題が発生していないか自宅にいながら確認することができました。一方、福島県常磐道の法面崩壊で通行止めが発生した箇所は、周辺前後が茶色（停車状態）で表示されておりました。

各個人がもつ携帯電話のGPS位置情報から、そのビックデータを解析し、交通状況を表示するグーグルのアプリは、非常に画期的で、大いに道路管理の現場で活用できます。

今後は、さらなる精度向上や他分野（交通解析等）での活用を期待するところです。